

## 取扱いの趣旨

患者の口腔状態等により、画像診断を行わずに暫間固定の必要性について判断し得る場合があることから、初診月に、「歯の脱臼」又は「歯の亜脱臼」で画像診断のない「I 014 暫間固定 2 困難なもの」の算定は原則として認められる。

## 支払基金が公表している取扱いの全文

【処置】 《平成26年8月25日》

### 35 暫間固定②

#### ○ 取扱い

原則として、初診月に、「歯の脱臼」又は「歯の亜脱臼」病名で画像診断を行っていない場合の「I 014 暫間固定 2 困難なもの」の算定を認める。

#### ○ 取扱いを定めた理由

「歯の脱臼」又は「歯の亜脱臼」病名において、画像診断により歯根膜、歯槽骨等の状態に関する画像情報を得ることは有用であるが、患者の状態や口腔状態等から、画像診断を行わずに暫間固定（困難なもの）の必要性について判断し得る場合があるものと考えられる。

## グラフの見方

### 1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

暫間固定（困難なもの）を算定しているレセプト1万件当たり、条件（初診月に画像診断の算定がなく、歯の脱臼又は歯の亜脱臼に対して暫間固定（困難なもの）を算定）に該当するレセプト件数

### 2 折れ線グラフ

該当レセプトのうち、暫間固定（困難なもの）が査定・返戻となった割合

#### 【棒グラフ凡例】 審査の結果

請求どおり			: 取扱いどおり
査定 審査委員	査定 職員契機	返戻	: 検証が必要

## 審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 0.10%
- 検証を必要とする支部 4支部

検証観点	特に検証を要する支部	備考
査定・返戻割合が高い支部	奈良、沖縄、神奈川、東京	査定・返戻割合の高い順
査定・職員契機	—	
査定・審査委員	沖縄、奈良、神奈川、東京	対象1万件当たり査定件数の多い順
返戻	—	
該当件数（全国）	初診月に画像診断がなく、歯の脱臼又は歯の亜脱臼に対して暫間固定（困難なもの）を算定	4,068件
取扱いに基づく審査	請求どおり	4,064件
検証を必要とする審査	査定・返戻の計	4件

### 【認める事例】

